令和４年度　　県内現地研修　海津の文化財を訪ねて
（令和４年１２月６日）

海津市歴史民俗資料館

この資料館の目玉は何といっても、屋外に併設されている「金廻四間門樋」であると思った。本体はすべて木造で、水漏れを防ぐため、たたき土で覆われている。四〇人程が乗ってもびくともしない頑丈なつくりであった。明治時代からおよそ五〇年間も働いてきたという。このような排水装置を考え設置した先人の水害対策に頭が下がる。資料館にはこの「門樋」の設計図が展示されている。パソコンのない時代の細かい作図に感服した。また、資料館入り口には、揖斐川・長良川・木曽川の水位が記されており、この辺りの土地の低さが一目でわかるよう工夫されていた。

早川家住宅

石造りの正門を入ると、どっしりと構えた主屋、そしてその中央には式台のある玄関が目に飛び込んでくる。この住宅は、水害への備えとともに、「濃尾地震」で被災した教訓をもとに再建されたという。土台を旧本宅跡より一ｍ程嵩上げし、カッテニワの天井の梁を頑丈にするなどの工夫を目にすることができた。また、当主から主屋や茶室などの説明を聞きながら、この家の歴史的文献や趣向を凝らした内装に目を奪われた。先の講演会の説明内容と重ね合わせて見学したが、一時間という限られた時間では物足りなさを感じた。

千代保稲荷神社

朱塗りの大鳥居が目を引くこの神社は、年間二百五十万人の参拝があり、商売繁盛、縁結び、合格祈願などにご利益があるという。コロナ禍ということもあり人出が少なく、今回は密を気にせず参拝することができた。参道沿いには草餅、川魚料理、串カツと土手煮、漬物などを扱っている店が軒を連ねていた。どの店も参拝客で賑わっていた。

行基寺

行基寺へは、道幅が狭く急な坂道が続く。足への負担を軽くするために、マイクロバスの利用であったが、それでも山門に辿り着くのは大変であった。濃尾平野を一望できる立地の良さや寺院を取り囲む塀などを目の当たりにすると、「隠れ城」の別称も納得できた。また、回廊式庭園や書院からの眺望は、下界の雑念を忘れさせてくれた。

研修を終えて

一二月初旬ではあったが、暖かい日差しに恵まれ、参加者全員がゆったりとした気分で研修を終えることができた。

國枝　秀子